慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	チェーンストアの多角化プロセス - 多角化進行パターンのバリエーション -
Sub Title	
Author	麻生敏雄(Asou, Toshio) 片岡一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1987
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1987年度経営学 第523号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001987-0523

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0523

学生氏名　麻生敏雄
（ジャスコ株式会社）
所属ゼミナール　和田充夫研

主査　片岡一郎
副査　和田充夫
矢作恒雄

チェーンストアの多角化プロセス
― 多角化進行パターンのバリエーション ―

わが国のチェーンストア業界では、今日、消費の成熟化，大店法等による出店難、業態内および業態間競争の激化などを背景にして、多角化への取組が重要課題となってきている。しかし、各社の多角化取り組みの現状を見てみると、その進め方や業績においていろいろ相違点が散見される。業績面では、現在のところイトーヨーカ堂が一歩抜きん出ているように見えるが、それを理由にイトーヨーカ堂の多角化がベストであるといってよいのだろうか。このことが本論文の問題提起の起点となっている。つまり、一般的にベストな多角化の進め方を特定できるのかどうか、ということが本論文の問題提起である。そこで本論文では、まず各社の多角化の進め方を分析するために、その企業の持つドメイン，多角化パターン（多角化の仕方）および組織の三つの要素に焦点を当て、これらのどのような連鎖がその企業の多角化進行パターンを構成しているのかを考え、その分析基本フレームを設定した。本論文ではこのフレームに二つの事例をあてはめ、次に多角化を行っている一般企業へのアンケート調査による実証分析を行った。その結果、三つの構成要素には相関関係が存在し、多角化進行パターンには数多くのバリエーションが存在することが判明した。さらに、この一般企業の調査で得られた複数の多角化進行パターンでは業績面において顕著な差が認められなかった。したがって、本論文では一般的にベストな多角化進行パターンは特定できないという結論に達した。但し、多角化進行パターンの構成要素には相関関係が存在し、その企業の多角化に関する方針に合致した多角化進行パターンが設定されることが判明した。これより、今後ますます多角化の必要性が増すと考えられるわが国のチェーンストア業界においても、自社に合った多角化進行パターンの構築および多角化に関する企業方針の見直しに伴う多角化進行パターンの再構築が必要であり、またこのことが将来的には市場における企業の地位を左右するほどの重要なポイントになってくるものと思われるのである。